

熊野の
木林から

怪熊野

「自然信仰」

和歌山大学
システム工学部
環境システム学科
中島敦司教授



熊野エリアの神社マップ(国土地理院Web地図を改変)

今年3月くらいから和歌山県内の神社の位置をマッピングしている。大きな神社だけでなく、見つかる限りで小祠(しょうし)の位置も記録している。日本では、明治時代に神社の統合が進められたが、南方熊楠が合祀(ごうし)に対して猛烈に反発した話は有名だ。それでも合祀は進み、他県よりもお上のお達しに従順だった和歌山県の合祀はすさまじく、神社数は十分の一になっ

たとも二十分の一になったともいわれている。文化庁発行の『宗教学鑑』には、現在、和歌山県内に513社の神社があると記載されているが、元の社地や社殿を残している場合もあり、実際にはもっと多い。このような神社、祠(ほこら)があるため、マップでは、すでに1200を超えるポイントが記録され、調査を続けている中で、今後とも増え続けることだろう。

神社は、普通は社殿や祠を持つのだが、熊野の地には滝や岩などを御神体として祀(まつ)る無社殿神社も多い。一部を挙げると、那智の滝を祀る飛瀧神社、串本町には井戸を御神体とする矢野熊の矢倉神社、森を祀る田並上の矢倉神、ねんねこ祭で知られる田原の木葉神社があり、古座川には島が御神体の河内神社、木を祀る峯の矢倉神社、高池の神戸神社、月ノ瀬の祓(はら)いの宮、森を祀っているとおぼしき長洞尾の矢倉神社、空神を祀る洞尾の矢倉神社、御神体は分からないが無社殿神社の宇津木の矢倉神社が



熊野の神社は、社殿があってもなくても荘厳な雰囲気がある。写真は那智勝浦町の色川神社。筆者が最も好きな神社のひとつだ。

ある。本宮には、森が祀られた請川の木葉神社、岩を御神体とする皆瀬川の谷口神社がある。旧熊野川町には、能坐淵という淵を祀つたとみられる日足字相須神丸の高倉神社、自然を祀る畝畑の高倉神社、磐座(いわくら)を祀る志古の稲荷神社がある。新宮では、相賀の山之神、南檜杖の天龍大神も磐座を祀る。三重県内でも、岩や岩壁を御神体とする、紀宝町神内の神内神社、大里の齋ヶ丘神社、鶴殿の大上神社、熊野市有馬町の花の窟神社、育生町の丹倉神社、有馬町池川のマナイタサマなどがある。

神社マップは公開しないつもりだ。なぜなら、地元の人々が大切にしている神域への不意な立ち入りをマップが手助けしてしまう恐れがあるからだ。あくまで研究としてのマップだが、伝承研究には非常に役に立っている。

中島敦司(なかしま・あつし)教授プロフィール

昭和38年、岐阜県生まれ。三重大学大学院生物資源研究科博士後期課程を修了。平成8年から和歌山大学システム工学部講師。12年から助教授。19年から教授。51歳。専門は森林生態、自然再生、砂漠緑化、海岸林再生、地域資源、地球温暖化、自然エネルギー、民俗(妖怪、伝承)。NPO活動にも力を入れる。熊野方面には年間30〜50日は訪問し、研究する。